

○第47回（平成30年1月30日）評価委員会評価

今年度の連携排砂は、7月1日より実施の体制に入ったが、複数の洪水流入により、7月4日の出し平ダム上流猫又地点からの油類を含む工事用機材流出事故を受け、7月7日に中止を決定した。その後、連携排砂を実施できなかったため、9月1日に土砂変質進行抑制策を実施した。

出し平ダムでは目標排砂量9万 m^3 、想定変動範囲の1万 m^3 から17万 m^3 に対し、7月連携排砂（中止）後で141万 m^3 堆砂し、宇奈月ダムでは70万 m^3 堆砂した。

- ・7月連携排砂（中止）時における観測SSデータを用いて、流入土砂量と水文データとの関係性の把握に努めること。

◇水質調査について

河川では、

- ・土砂変質進行抑制策では、各調査項目について、連携排砂時における既往の観測値に比べて低い値を示した。

海域では、

- ・連携排砂（中止）時の水質連続観測地点（C点、P-12点）における濁度は、連携排砂時における既往の観測値を上回った。

◇底質調査について

湛水池では、

- ・5月、9月の定期調査時においては、概ね過去の測定値の範囲内であった。
また、土砂変質進行抑制策前後の調査結果より、一部で効果が見受けられた。

海域では、

- ・一部地点において、例年と比較して高い値を示す項目が見られたため、引き続き注視していくこと。

◇水生生物調査について

- ・河川における付着藻類相の変化については、引き続き調査検討が必要である。

◇大粒径土砂の移動状況調査について

- ・大粒径土砂の移動状況の実態把握と宇奈月ダムの今後の堆砂管理に資するため、引き続き調査を実施すること。

◇次回連携排砂に向けての検討状況について

- ・本日の評価委員会における各委員からの意見を踏まえながら、関係団体、関係機関よりご意見を伺い、引き続き検討していくこと。

以 上